

佐渡市立両津病院 看護助手 頓所 由実 様

看護助手の頓宮です。
緊張しておりますが最後まで宜しくお願いいたします。

Q1 看護補助者として働き始められたきっかけと、これまでのキャリアについて教えてください

A1 私が看護補助者として勤め始めたのが、子供が1歳半頃になりますので今年で15年目になります。おおよそ、外来勤務が10年、病棟勤務が5年になります。

Q2 外来勤務での具体的な業務内容についてお聞かせください

A2 主に診療介助になります。
業務内容は、患者さんの案内や問診・バイタルサイン測定、医師のサポート（器具の準備、処置の介助など）を包括的に行うことです。

Q3 苦勞された点や、どのように業務を習得されたか教えてください

A3 診療介助についた頃は知識も経験もありませんでした。患者さんの顔と名前、業務の内容や流れを覚えることは容易ではなく、たくさん指摘され失敗もしました。
しかし、先生をはじめ看護補助者が次の行動がとれるように分かりやすく教えてくれるので少しずつ覚えることが出来ました。
また、看護師さんや周囲のスタッフへ相談することで分かりやすく教えてくれたり協力してくれたので一人で頑張らなくても良いという安心感を覚えました。

Q4 業務に慣れることで、どのような変化がありましたか

A4 患者さんからも名前や顔を覚えてもらえたり、様々な患者さんとコミュニケーションを図ることで、患者さんの意向を汲み取ることができたり、患者さんの普段の様子の変化にも気付けるようになり、いつしかやりがいを持てるようになりました。



Q5 病棟勤務における業務内容や、外来勤務との違いについて教えてください

A5 病棟業務は主に病室環境の清掃や整理整頓、シーツ交換などの生活環境に関わる業務、診療材料の補充・整理、検体や薬剤の搬送などの診療の補助に関わる周辺業務、配膳・下膳、食事介助、身体の清潔に関する業務などの日常生活に関わる業務等になります。

外来勤務と病棟勤務の違いは、病棟勤務では曜日によって業務内容が替わることです。

主に午前に行う身体清潔によって替わります。陰部を洗浄するオムツ交換・身体を拭く清拭・寝たきり患者さんの入浴方法のひとつハーバード浴がありますので曜日毎の業務内容を覚えなければいけません。

また、身体清潔の内容によっては看護補助者の人員配置数も変わってきます。



Q6 今までで印象に残っていることはどのようなことですか

A6 病棟配属になり、昨日まで笑顔で会話をしてくれていた患者さん、言葉は話せなくても声をかけると目を開けて表情を緩めたり頷いてくれた患者さんの急変を目の当たりにすることが幾度となくあります。

外来勤務の時でしたが、急変した患者さんに対して迅速な対応で連携を図りながら、集中治療室へ移動の最中も姿勢を崩さず、ベッド上で心臓マッサージを続ける看護師さんの姿や交替で心臓マッサージや処置などを続ける医師と看護師さん達の姿は今でも鮮明に覚えており印象に残っています。

その時、私達看護補助者は看護師の指示のもと他の患者さんの対応にあたりました。

その出来事から、日々の報告・連絡・相談・確認やコミュニケーションを図ることは大切で、時には看護師さんからの厳しい指摘もありますが、看護補助者も医療チームの一員であること、患者さんが第一であり必要なことだと改めて感じました。

Q7 看護補助者の勤務体制や、スキルアップ、休暇制度について教えてください

- A7 今現在、看護補助者は18名いますが、生活スタイルに合わせて様々な勤務形態の方がいます。
また、スキルアップに繋がる院内研修会や看護補助者研修会もあり、中には、資格取得を目指している方や日々の業務の傍ら資格を取得した方もいます。
休暇については、1ヶ月に5日まで希望休を取れたり、10日間の年次休暇や3日間の夏季休暇なども取れます。

Q8 最後に、看護補助者として仕事を続けている理由や、今後の抱負をお願いします

- A8 私が看護補助者として続けられる理由は、日々患者さんと接する中で患者さんからの「ありがとう」という言葉や笑顔に触れられること、言葉は交わせなくても声をかけると目を開けたり頷いたりしてくれることでやりがいを感じています。
医療チームの一員として常に相手を尊重する気持ちや態度を忘れずに行動していきたいです。

